

『学んできた事』

牧 和宏 Kazuhiro MAKI

牧齒科医院 〒030-0862 青森県青森市古川1-16-11

「学ぶ」は「真似(まね)ぶ」からきていて、「まねる」事から始まる、という。3Mix-MP法の基礎実習で、常々「何も足さない、何も引かない」で習った通りにやる事、と言っているのは「学び」の基礎を説いているのだ。

私が宅重先生と知り合ってから色々言われてきたことを時系列で並べて見た。

1. 医療は両刃の剣
2. 私の真似をなさい
3. 歯科治療で一番難しいのは何か分かるか？
4. 基礎系の勉強をなさい

1番は、卒業して、宅重先生との初面接の時に言われた言葉。医療従事者の最も基本をなす心構えの意味だと思った。2番は、その後実際の診療を行い始めた頃に言われた言葉。

3番目はしばらくして、あれもできないこれもできないと困っていた頃に言われた言葉。

4番目はだいぶ経って、ある日「私は今生理学の勉強をしている、筋紡錘について勉強している」と言って、その後私に言った言葉。

三十年も前に「医療は両刃の剣」と学校出たての者に、オーバートリートメントを戒めていた。我々は常に自分がやったことが患者に害を与えていないかを気にするべきで、この概念が3Mix-MP法の根底に流れている。その後の、3Mix-MP法は「長期維持を目指す暫間治療」である、と言う奥深い主義に繋がっている。

「素直に私のマネをなさい。そうすれば名医になれる」と言う。名医はともかく、当方はそのつもりなのだがなかなか上手くいかない。名医にとって当たり前の事でもこっちには至難のワザという事がいっぱい有る。この場合のマネは、初期段階では教えられた通りにやるべし、勝手に自分でアレンジするな、という意味である。それを勘違いして何でもかんでも宅重先生のようにやろうとすると大怪我をするだろう。

駆け出しの歯医者にはあの治療もこの治療も何でも難しい。その駆け出しに「一番難しい歯科治療」が分かるはずが無い。当然、「咬合調整が一番難しい」と言われてもその時はチンプンカンプンであった。それから30年近くたち、3Mix-MP法の中で体系付けて教えられたのは咬合調整が最後だった。10年以上前から咬合調整の重要さは匂わしていたけど、「まだ早い」と言っていた。細菌のコントロールが完璧になってから、と言う考えだったのだと思う。

その後、私が最後に言われたことは「基礎系の勉強を怠るな」ということだった。臨床で何らかの疑問が湧いた時、色々な臨床の商業系雑誌を読むのもいいけど、基礎系の専門書にあたって理論的な解決を試みる姿勢も大切なことだろう。逆に、日々の臨床の現象から基礎系の難解だった理論がすんなり飲み込める事も有るかも知れない。何かにポイントを絞って自分なりに基礎的な理論を掘り下げていくのも良い。それによって何らかの仮説が生まれたら皆なに披露して検討するのは非常に有意義な事だと思う。

あれっ？それって、科学的手順というものだけ？